

＜評価の基準＞

A：計画通りの成果を得られた

C：計画通りに事業が遂行できなかった

B：一部成果を得られないものもあった

D：事業に着手できなかった

No.	3つの視点			事業名	担当課	事業内容	H27までの評価と課題	評価	H28の評価	評価	今後の方針
	安全	安心	笑顔								
58		○		民間における交通安全の確保	民間実施 ※市民連携室	民間においても交通安全の講習会や、チャイルドシートの効果や正しい使用方法の普及活動、また、チャイルドシートの無料貸し出しを行っています。 これらと連携を取りながら子ども等の交通安全対策を進めていきます。	交通安全母の会等各団体会員の減少、高齢化などの課題があるが、計画どおり事業を実施しており、今後も継続していく。	A	各民間団体等会員の減少、それに伴う運営費の縮減、高齢化などにより一部事業縮小となったが、子ども等の交通安全対策のため、今後も連携を図っていく。	B	各民間団体の会員の減少という課題はあるが、引き続き、交通安全活動に連携して取り組んでいく。
7	○	○		在宅における児童の支援（ファミリー・サポート）	子ども課	在宅における支援活動として、サービスを利用したい人と協力したい人がそれぞれ登録して会員の自宅等で保育サービスを行っています。 民間で実施している事業の情報を提供するとともに、講座の開催など保育サービス提供者を支援していきます。	提供会員の養成のため「保育サービス講習会（9項目24時間）」を実施し、全講座修了者18名に女性労働協会認定の修了証を交付した。民間活動グループの代表に講師を依頼するなど連携して、グループの活動を紹介・参加を呼びかけ、2名の会員登録があった。	B	提供会員の養成のため「保育サービス講習会（9項目24時間）」を実施し、全講座修了者11名に女性労働協会認定の修了証を交付した。民間活動グループの代表に講師を依頼したほか、放課後児童クラブ指導員助手の活動を紹介・参加を呼びかけ、7名の会員登録があった。	B	平成30年度のファミリー・サポート・センター開設に向けて準備を進める。
38			○	親になるための交流事業	子ども課	中・高生等が直接子育てをしている親子と語り、交流できる場の提供を行います。	高校生が「ひなたっ子」で乳幼児・母親と交流し、命の大切さ、赤ちゃんや子育て中の親に対するいたわりや思いやりの心、また、自分を育ててくれた親への感謝の気持ちを育むことができた。 なお、中学生に対して交流の場を設けられなかった。	B	中学生は「北村中央保育所」及び「美流渡保育所」にて、高校生は「ひなたっ子」で乳幼児・母親と交流し、命の大切さ、赤ちゃんや子育て中の親に対するいたわりや思いやりの心、また、自分を育ててくれた親への感謝の気持ちを育むことができた。 □	B	中学生に向けて広がりを見せているが、より積極的に事業をPRしていきたい。
70	○	○		児童見守りシステム	指導室	児童の安全・安心確保を目的に、市の光ファイバー網などの環境を活用したICタグ（無線末端）による見守りサービスを、希望者を対象に実施していますが、3年生まで対象者を拡大し、全小学校と3児童館に設置しているICタグを検知するセンサーを全児童館に整備するとともに、全小学生対象の不審者情報の一斉通報サービスを含めた見守りシステムの拡大を図っていきます。	平成27年度は、小学校全体で77.8%の利用率で、1年生88%、2年生89%、3年生90%、4年生82%、5年生79%、6年生が41.2%となっており、6年生の利用率が低かった。次年度以降は、利用率も高まるものと考えており、100%の利用を目標に学校を通じて各家庭に働きかけていく。	B	平成28年度は、小学校全体で87.1%の利用率で、1年生90%、2年生90%、3年生89%、4年生88%、5年生81%、6年生が79%となった。次年度以降、100%の利用を目標に学校を通じて各家庭に働きかけていく。	B	小学校全体の普及率が10ポイント上昇しているが、より一層普及率を高めるため、今後も学校を通じた働きかけを継続していく。
82	○	○		5歳児健診	健康づくり推進課	発達障害の早期発見と適正な支援を目的に実施する健診です。小学校就学前に発達の遅れを発見し、就学に向けた支援をすることを目的にします。	発達支援の体制として、地域の保育園、幼稚園への巡回相談を実施し、集団場面の様子を把握し、必要な児を相談につなげている。3歳児健診以降は特に集団観察が重要とされているため、巡回相談を継続し、就学に向けて継続的に支援体制が組めるよう連携していきたい。5歳児健診の実施については、就学に向けて保護者の意識が変化する中、支援が必要な児に介入する機会としてどのような体制をとるべきか、今後も検討が必要である。	C	発達支援の体制として、地域の保育園、幼稚園への巡回相談を実施し、集団場面の様子を把握し、必要な児を相談につなげている。3歳児健診以降は特に集団観察が重要とされているため、人的配置等難しい面もあるが巡回相談を拡充する等、就学に向けて継続的に支援体制が組めるよう連携していきたい。5歳児健診の実施については、支援が必要な児に介入する機会としてどのような体制をとるべきか、今後も検討が必要である。	C	発達障害の早期発見と適切な支援のため、5歳児健診以外の方法を含め、どのような方法が必要か引き続き検討する。

子ども・子育て支援の3つの視点と評価

【安全（23事業）】 A：20事業 B：2事業 C：1事業

【安心（61事業）】 A：57事業 B：3事業 C：1事業

【笑顔（29事業）】 A：28事業 B：1事業 C：0事業